

## 豊かなかかわりを通して、ともに生きる力の 基礎をはぐくむ特別活動

—子どもの社会性を育む学級活動の実践—

東京都世田谷区立千歳小学校 大橋 順子

### 1. 研究にあたって

本来、児童期は社会性の面でもっとも急速な発達をする時期である。通常、10歳前後の小学校中学年頃から、子どもたちは同性・同年齢を中心とした密接な仲間集団を作る。発達心理学ではこの年代層を「ギャング・エイジ」と呼ぶ。集団の中で、いたずらも含めてダイナミックに遊びを展開させる。しかし、70年代の終わり頃から児童期の遊びの変化がみられる。仲間集団が消失し、集団遊びの中で社会性を培うという独特の子ども文化がこの時期に消えていった。この遊びの変化が、子どもたちの社会性の有り様を変えた。現代の子ども達においては、習い事の増加や遊び場所の減少により、集団遊びそのものがさらに後退してきている。それまでの「情緒交換遊び」から、2～3人の小人数でのテレビゲームをはじめとする遊具を通した「情報交換遊び」への変質とも言われている。

このような社会の変化のなかで、現代の子どもたちが社会性を獲得する手段は学校生活の中に限られてきているという。特に休み時間の遊びの中でそのほとんどを獲得しているという。

先週一週間のうち友達と遊んだ日数			休みの日・放課後に遊んだ遊び		
1位	2日	78人	1位	ゲーム	88人
2位	3日	72人	2位	おにごっこ	21人
3位	0日	48人	その他多項目のため集計できず		
遊べなかった理由 (回答数346人)			学校の休み時間に遊んだ遊び		
1位	塾・習い事	288人	1位	ドッジボール	51人
2位	家の事情	46人	・ハンドベース ・ドロケイ ・バスケ		
3位	疲れた等	12人	・サッカー ・読書 ・おしゃべり 等		

本分科会研究員のアンケート調査より (17年7月、9月実施)

本分科会研究員の学級児童へのアンケート調査の結果からは、

- ・交友関係を広げたり、深めたりしていこうとしない。
- ・みんなで何かをしたいという思いはあるが、行動につながらない。

といった児童の実態が捉えられた。

近年、集団遊びの消失や「私事化」といった社会の変化を背景として、集団生活に不安を抱える児童が少なくない。人とかかわることを面倒だと考えたり、自分の考えだけに固執し、友達の考えを受け入れなかったりする児童が多くなった。休み時間に一人で過ごすことを好む児童、自分の思いや考えを十分に伝えられず、ささいなトラブルも解決できない児童も増えてい

る。こうした問題の背景には、「児童の人とかかわる力」の低下があげられる。

このような児童の実態とその背景、特別活動のねらいをふまえ、本分科会では、自分の思いや考えを伝える場面や、自分の存在を認められる場をふやし多様化することで、「人とかかわる力」をのばし、「ともに生きる力」をはぐくむことを研究の目的とした。つまり、児童の社会性の育成に不可欠な「豊

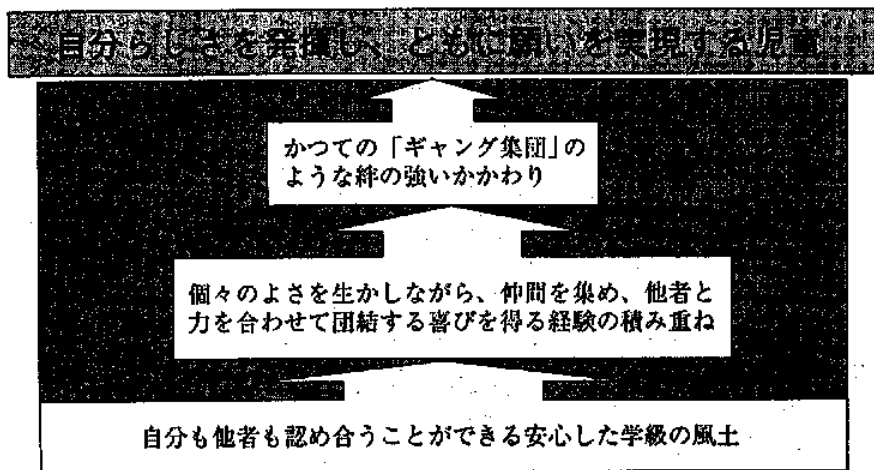
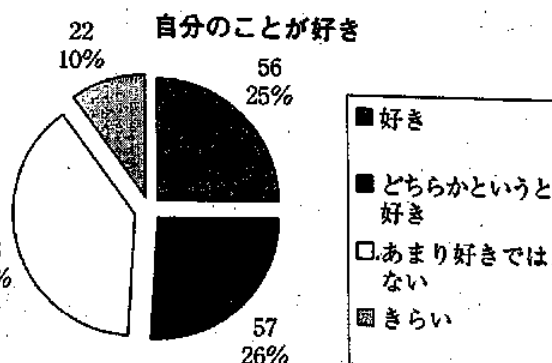
かななかわり」を、学校生活の中で創出していくことを研究の柱とした。学級活動を中心として、さまざまななかわりの中で、密接な仲間の絆を育む手だてを講じることにより、力を合わせて、共に願いを実現しようとする児童の育成につながるだろうと考えたからである。

社会性という、「みんな一緒に仲良く」と発想されがちである。社会性は時代と共に変化する。時代や社会環境が大きく変化してきている中で教育が目指す方向性は、子どもたちが生きる21世紀を大きく視野に入れていかなければならない。個性を尊重する時代の中で、自分の生き方を大切にするには、他人の生き方を大切にする必要があり、異なったもの同士が共生するために、必要最低限のルールを創出していく力が求められているのである。そして必要とあれば、少々の価値観の違いを越え、協力し合わなければならない。このような社会性がこれからの社会に生きる子どもたちには必要なのだと思う。その上で、自分らしさを発揮するために、

- ・約半数の児童が自分に自信がなかったり、他人からどう思われているか気になったりして、自分の意見を言うことに抵抗を示している。

という児童の実態からも、心理的に心地よい環境が学級でも形成されなければならないと考えた。安定した感情を持ちながら、互いの異なりをしっかりと確認する体験が必要になると考えるからである。自分と他者とを比較する体験をそこで味わう学級は、他人と出会う場として大切な環境となる。比較なしには、自分の価値、自分の個性を確認することはできないからである。これを踏まえ、本研究では、社会性の育成のためにも、個性の尊重や自分らしさを発揮できることを大切にしたいと考えた。

そこで本分科会では、目指す児童像とそのための手だてを次のようにとらえた。



目指す児童を育てるために、

- ・自分も他者も認め合うことができる安心した学級の風土の中で、
- ・個々のよさを生かしながら、仲間を集め、他者と力を合わせて団結する喜びを得る経験を積み重ね、
- ・かつての「ギャング集団」のような絆の強いかわりをもつことによって、それぞれが自分のよさを自分自身で認め、発揮し合った上でその力を合わせて、共に願いを実現する児童が育つだろうと考え、本研究主題を設定した。

※「ともに生きる力」について

望ましい人間関係を築くためには、一人一人が自分の存在価値を認識し、自己肯定感を高めながら、相手の存在価値を受け入れ、認めていくことが大切である。自分の思いや願いを伝えるとともに、相手の思いや願いを受け止め、ともに願いを実現しようとする経験を積み重ねることが必要である。

本部会では、お互いの存在を認め合い、望ましい人間関係を築きながら、互いのもつ力を生かし協力して生活する力を「ともに生きる力」と考えた。この力は、人間が生涯にわたって培う力であるため、小学校段階ではその基礎を築くことが重要と考えた。

## 2. 実践の概要

視点1：自分らしさを発揮するための工夫

視点2：自分たちの力で共に願いを実現していくための工夫

### ① 友達のよさ・自分のよさを見つける活動の工夫

共に願いを実現していくためには、自他の活動をふりかえり、自分や友達のよさを見取る目を育て、次の活動に生かすことが大切である。互いのよさに気づき、それぞれのよさを生かして活動していくことにつなげていきたいと考えた。

- ・今日の「ピカイチ賞」を帰りの会で発表。友達のがんばりやしてもらってうれしかったことを発表する。
- ・学級カレンダーによる学級の歩みや感動の共有。
- ・係への「リクエストカード」「アドバイスカード」や「ありがとうカード」の活用。
- ・集会などさまざまな活動の経過報告や掲示による学び合い。
- ・振り返りカード

学級会で決めた集会などの活動後に、振り返りの話合いやアンケートを行うことで、よかった点や課題に気づき、今後の活動に生かしていく。また全員の意見を掲示することにより、自分と同じような考えの友達がいることを知り、その後の自分の意見を発表しやすくなる。

- ・司会グループの輪番制による、司会の仕方の学び合い。→フォロア側がアドバイスをする。
- ・学級会カード

自分の考えをしっかりと持つことで、自分の考えを出せる喜びや友達との相違を知り、相互理解できるようになっていく。

- ・学級会で決まったことに対して、一人一人が関わっていけるようにする。また、自分らしさを発揮できる役割を与える。

・話合い→実践（ねらい・めあての確認）→振り返り→次の話合い・活動

② **グループ・係からの提案を学級全体に広げるための工夫**

・議題の誕生

何かをしたいグループや係などが声を出し、実現するために議題として提案し、それに賛成したい人は名前を書き込み、学級会で話し合う。このことを繰り返すことで、自分の思いを実現に向かって出せるようになり、誰かの思いを実現させるためにお互い受け入れ合う学級集団になっていく。

・「この指とまれ」方式

何かをしたい個人やグループで声を出し、係として集まったり、集会への議題をつくっていったりする。

・黒板・掲示板の活用個々の考えや係、グループからの提案（誘い）を自由に知らせるスペースを作る。

・係活動の充実

学級活動の時間で係活動のための時間を持ち、学級全体が盛り上がるような企画を考える。

③ **学級への所属意識を高める活動の充実**

学級目標を具現化し、子どもの発意発想を生かした活動をすることで、活動意欲が高まるだけでなく、学級への所属意識が高まり、学級文化が高まる。協力しあって何かを成し遂げるためには、集団に一員としての自覚を高め、集団にすすんでかかわるとともに、互いの立場や役割を自覚し、心を合わせて活動に取り組むことができるようにすることが大切であると考え

- ・学級の合い言葉を決め、学級会の名前やクラス遊びの時間のネーミングに活用するなどこれからの一年間のいろいろな活動に活用。
- ・学級遊びの時間の設定「チャレンジャータイム」として週1回、業間時間に設定。
- ・学級のシンボルマークや学級の歌を活用。
- ・集会活動を全員で。(一人一役)
- ・係や生活班においてもネーミングやめあて、合い言葉などを工夫させ、所属意識を高める。

常時活動（視点1・2共通）

- ・朝の会や帰りの会の活用
- ・遊びの幅を広げる
- ・係給食
- ・意見文の掲示

など

3. 具体的な実践

① 「学級目標をはたそうシリーズ第1回 ドッジボール大会」

(計画→話し合い→実践→振り返り→)

〈学級通信より〉

「4組にはこういうクラスを作ろう!というすばらしい学級目標がある。これに近づくために、みんなで話し合おう、何かしよう」という議題をSさんが出してくれました。わくわく会議(学級会)で話し合った結果、学級活動の時間(基本的に金曜5時間目)を使い、色々な

イベントを実行することになりました。今回はそのスタート「ドッジボール大会」です。みんなで話し合った結果、チームワークをよくする工夫やもっともっと楽しくする工夫を話し合いました。その結果、

- ・オリジナルのチーム名をつける
- ・チームのキャラクターを作る
- ・それぞれのチームのかけ声を考える
- ・チームカラーのはちまきをしめる
- ・チームの旗を作る
- ・表彰式をする
- ・スペシャルドリンクで乾杯!
- ・表彰式でクラッカーを鳴らす

などなど

みんなの力で、とっても楽しいドッジボール大会になったようです。実行委員に頼まれて（I君・O君・K君です）私がお手伝いをしたことは、コートをかいたこと、時間をはかったこと、プログラムを模造紙に書いたこと……ぐらいです。（あと写真を撮ったくらい。）イベント運営の力をつけてきていることはわかっていたのですが、今回は更なる成長を感じました。自分たちの力で、実行委員を中心にしてどんどん動き、一つのイベントを立派に創り上げることができるようになった4組の仲間到大拍手です。時間もピッタリでした！次も期待しています！

〈よかったこと・がんばったこと〉

けっしょうせんで負けちゃったけど2位になれてよかったです。 今回のドッジボールはどっちもがんばっていました。それに一位になれてよかったです。 よけっきた！ 今日けんかがなくてよかった。 前よりもボールがとれた。 ボールを投げるのをがんばった。がんばった。

〈光っていた友達〉

女の子全員→よけながら、すごくがんばっていた。 みんな→どの人もボールをとろうとしたり、よけたり、がんばっていたとおもいます。 S君→取れない子にも投げさせてあげた。 A君→すごい迫力でポコンとすごい音をたてながら、強い球をいっぱいキャッチしていた。 I君→がんばって進んでいた。 T君→かけ声とかがよくって、いっぱいってチームを引っばっていた。 Kさん→一人になってたけどがんばってにげていたから T君→一人少ないチームでもがんばっていた。

〈実行委員に一言〉

生けん命ががんばってくれてありがとう！ ドッジボールはさ  
いあくと思っていたけど、今回は今までの中で一番楽しかったで  
す。 こんな楽しいドッジボール大会にしてくれてありがと  
う！！ 楽しくしてくれてありがとう。 すごく明るくて楽し  
かった。 いろいろ考えていましたね。 楽しかった。 力  
いっぱいできたね。 もんくなしによかった。 えらいね。  
すごいよ。

②「係活動発表会をしよう」(計画→実践→振り返り→)

〈係活動をはじめるにあたって〉

1学期のはじめに当番活動と係活動の違いについて指導をした。

当番の活動……必要な仕事を分担して行うもの。掃除をする，給食を配るなど。専科の先生との連絡や電気をつける，窓を開けるなども当番活動。

係の活動……自分たちで創意工夫して，自主的に行うもの。

その上で，「みんなが喜ぶこと，クラスがよりよく，より楽しくなること」で，「自分たちのアイデアが生かせる楽しい活動ができること」で「最後まで自分たちの力でやりとげられる」もの，と言う3つの条件を提示。仕事を思いついた発起人が「この指とまれ！」方式で仲間を集め，活動を開始した。

〈2学期の係紹介〉(学級通信より)

学校の七不思議	女子5名	学校中を調査し，いろいろな「不思議!？」を見つけてみんなに報告します。毎月新聞を発行します。
穴場発見隊	男子3名	虫のたくさんいる場所などみんなの知らない穴場を発見し紹介します。
ビデオ放送局 「スーパー・ ハイビジョン」	男子6名 女子3名	自分たちでデジタルビデオを使って番組を作ります。制作した番組は給食の時間などに流してみんなに見てもらいます。
ゴーストニュース	女子3名	怖い話を紹介したり，新聞などで妖怪を紹介したりします。
ハッピーバースデイ	女子5名	みんなの誕生日を調べて紹介します。給食の時間を使って，牛乳で乾杯したり，パーティーをしたりして，みんなでお祝いします。毎月，新聞も発行するよ。
おもしろインテリア	男子2名	教室を楽しく飾り付けをします。みんなのアイデアを生かすので，リクエストをよせて下さい。
クラスチャレンジャー	男子5名	クラスみんなで色々なことにチャレンジするイベントを計画します。クラスギネスブックを作って，すごい人を登録します。他のクラスにも挑戦する??

※1学期は，占いやマジック，転出児や有名人に手紙を出して返事を紹介する係などもあった。

〈係活動活性化のために〉

活動時間の確保のために

- ・金曜の朝の学習(モジュール時間)を係の活動にあて，週一回確実に活動ができるようにする。
- ・金曜日の給食時間を「係給食」とし，係で集まって食べながら，来週の活動について話し合ったり，打ち合わせてしたりできるようにする。

場の確保のために

- ・学級活動の時間だけでなく，朝の会や帰りの会で「係からの連絡コーナー」を作り，お知らせやお願いの他，ミニ発表会を行ったりできる場を設ける。
- ・係活動のポスターや新聞などの掲示の他，各係へのお願いの他，学級全員でそれぞれの活動のがんばりなどが確認できるようにする。

活動意欲を高めるために

- ・係独自の楽しい名前を工夫させ、所属感や活動に対する期待感をもたせる。
- ・係への「ありがとうカード」や「お願いカード」を利用し、それぞれの活動を意識してがんばりや認め合えるようにする。
- ・月末に1ヶ月の係の活動をPRし合い、もっともがんばったとみんなに認められた係に表彰状を渡す、ランキング上位を掲示する、よかったことみんなのメッセージをカードにして各係に渡すなど、活動の成果が確実に確認できるようにする。
- ・がんばっている係は教師側でも適宜とりとげ、学級全体に紹介する。

計画的活動を支援するために

- ・毎月のはじめには毎月活動カレンダーを書いて、ポスターとともに掲示し、計画的に活動がすすめられるようにする。
- ・月末には活動カレンダーの反省欄に印を書き込むことによって、1ヶ月の活動が計画的にすすめられたかふりかえることができるようにする。
- ・学期末にカードを記入し各個人でも、自分の活動をふりかえる機会をつくる。

〈パワーアップ係発表会〉

1回目の係発表会は、係で活動してきたことをふりかえて、活動の経過を発表会の形で報告し合うことで、他の係を参考にして、その後の自分たちの活動を工夫することをねらいとした。係発表会終了後、それぞれの係のよかったこと、がんばっていたことのほかに、自分たちが取り入れたいと思った工夫などを発表しあった。

パワーアップ係発表会とネーミングした2回目は係の独自性を生かして発表することで、それぞれの係のがんばりやよさを認め合い、次の活動に生かすことをねらいとした。

係活動でも、力を合わせる喜びを味わうために、自分のよさを発揮したり、友達のよさを認め合ったりしながら、団結する場面を多く設定した。

#### 4. おわりに

学習指導要領のねらいを実現するために、特別活動においては「望ましい集団活動の確かな実践」が今日、求められている。本学級ではその手だてとして、学級活動に力点を置き、めざす子ども像を設定し、子どもたちが、「個々のよさを生かしながら、仲間を集め他者と力を合わせて団結する喜びを得る経験」を積み重ねることができるよう、意図的・計画的な学級活動をくりかえし、日々の生活に生きていく実践的な力を身につける指導の工夫に努めてきた。

実践の積み重ねにより、子どもたちは、集団の目標に向かって、方法や手段をみんなで考え、意欲をもって協力して活動するようになってきた。

学級活動のとりくみは、その子のよさがその子の生きてきた道のりとともに見えてくる。だから、教師はそのよさに気づくことで、子どもたちからひとつ「明日を生きる元気」を頂く。同時に教師は、同じ目標にむけてとりくむ仲間(子どもたち)がいることに感謝し、さらに「明日をがんばる元気」を頂く。

学級活動は、何より集団活動を通して人から多くを学ぶ。いろいろな人(子どもたち)と出会い、いろいろな立場から物事を考え、相手の立場になって考えることができるようになるとともに、自分の持ち味に気づき、活かすことができるようになるすばらしい活動である。

本研究は発展途上である。今後も「自分もよく、みんなもいようにするにはどうするかを、みんなで考え、協力してすすんでいく活動」を考え、子どもたちとともに経験を積み重ね、実践的な社会性を身につけていくことができるよう、指導を充実させていきたいと考えている。